

ナンバリング	科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT18	海運論	交通市場での海運の役割	後藤 洋政	2年次後期	2
科目区分	専門	キーワード	海上輸送、内航海運、外航海運、定期船、不定期船、港湾		
ディプロマポリシーとの対応		2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける			
事前に受講するとよい科目		交通概論、鉄道基礎、鉄道工学、鉄道数学、交通英語入門、交通英語、交通史、交通政策論			
オフィスアワー		授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。			
教員への連絡方法		hgoto@toko.hosho.ac.jp			
講義の目的	本講義では、国内・国際交通市場における海運事業に関する基礎的知識として、海運事業の仕組み、海運事業の現状と課題、わが国の経済社会における海運事業の役割について理解することを目的とします。さらに、交通市場全体が抱える問題点を整理・理解したうえで、今後の海運事業のあり方について考察する能力を身につけることを目的とします。				
到達目標	日頃、身近に接することが少ない海運事業ですが、わが国の経済活動における海運事業の役割はとても重要です。そこで、私たちの生活の中での海運事業の位置付けを認識すること、海運事業の現状や課題を理解することが到達目標です。				
講義内容	海運（海運事業）といっても、内航と外航、旅客輸送と貨物輸送、定期と不定期といった分類ができます。本講義では、内航海運（国内での輸送）と外航海運（国をまたいだ輸送）における貨物輸送に重点を置き、海運の果たす役割、海運事業の仕組みや現状について事例を交えて説明します。また、海運を支える港湾の仕組み、制度や政策について基本的な事柄を説明します。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	オリエンテーション	海運論で学ぶことや講義の進め方		
	第2講	イントロダクション	船舶と海運の基礎事項の整理、海運事業について		
	第3講	船の種類と役割	海運で使われる船の種類と構造		
	第4講	内航海運の現状	内航海運の動向や仕組み		
	第5講	内航海運の政策	内航海運における制度や規制改革		
	第6講	モーダルシフト	環境問題と内航海運の役割		
	第7講	内航海運の課題と今後①	内航海運が抱える課題		
	第8講	内航海運の課題と今後②	内航海運業のまとめと今後の見通し		
	第9講	外航海運の現状	外航海運の動向や仕組み		
	第10講	定期船事業	外航海運における定期船事業の動向や仕組み		
	第11講	不定期船事業	外航海運における不定期船事業の動向や仕組み		
	第12講	外航海運の課題と今後	外航海運が抱える課題と今後の見通し		
	第13講	港湾の現状	港湾の分類、制度、運営、政策		
	第14講	港湾の課題と今後	わが国の港湾の課題と今後の見通し		
第15講	まとめ	第1講から第14講で学習した事項の整理・復習			
指導方法	スライド、レジュメ、参考資料等を活用しながら講義を進めます。配布する資料は、概要や要旨を記載したものであり、講義を受けながらノートを作成する形式とします。				
事前学習	講義の際に、次回の内容に関する参考文献や動画等を紹介しますので、予め資料・動画に目を通し、海運事業についての予備知識を持って講義に臨んで下さい。1時間30分程度の学習時間が目安である。				
事後学習	毎回の講義内容をノート等にまとめ、他の交通機関との比較や疑問点、用語を調べる癖を付けて下さい。また、講義後に課題を出しますので（不定期）、課題に取り組み、内容を確実に習得できるようにして下さい。1時間30分程度の学習時間が目安である。				
成績評価方法	「本試験（筆記試験）」70%、「平常点（授業内課題）」30%で評価します。				
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法	講義内で解説する。				
テキスト	池田良穂『基礎から学ぶ海運と港湾』海文堂、2017年。				
参考文献	森隆行(2023)『新訂 外航海運概論』成山堂、畑本郁彦・古莊雅生(2021)『内航海運概論』成山堂 国土交通省海事局「海事レポート2024」、日本海事広報協会「SHIPPING NOW 2024-2025」				
実務家教員による授業	教員	経歴			
特記事項	自動車・鉄道・航空での貨物輸送について調べておくことが望ましい。ただし、履修条件ではない。				